

「二人っ子政策」の理想と現実

岡山県上海事務所 馬小琳

(日中経済貿易センター上海事務所)

一人っ子政策とは

中国では人口を抑えるため、1979年から「一人っ子政策」を実施していた。この三十余年にわたり、ほとんどの家庭は政府のスローガンに応じて子どもを1人しか生まず、政府は一人っ子家庭に対して手当てを支給していた。その結果、80年代生まれの世代はほとんど兄弟姉妹がおらず、両親、祖父母、子ども1人の家庭が多く、一人っ子は家庭内の宝物だ。

「二人っ子政策」実施の現状

現在中国の人口は13.6億人、2017年にピーク値に達し、以降、段々と人口が減少していくと専門家は指摘している。

中国政府は去年から「単独二子」政策を実施している。これは、夫婦の一方が一人っ子であれば、第二子の出産を認めるものである。しかし現在の若者は昔のような「代々血統を守る」観念に縛られておらず、結婚したくない人や子どもを作りたくない人も増えてきた。

子育てには、生まれてから、幼稚園、小・中・高等学校、さらには大学までたくさんの支出を伴う。中国では住宅の場所によって、通う小学校が決まるため、お金を借りたり貯金を使ったりして教育レベルが高い小学校の周辺に住宅を購入する例が少なくない。小学校だけでなく、中学校、高校の選択も大切だ。子供の教育のため、中間所得層の一生分の貯金を使うことも珍しくない。

教育費以外の、日常的な支出やその他の費用も大きな出費となる。そのため、政府が「二人っ子政策」を実施しているものの、全ての適応者が子どもを2人産みたいと考えている訳ではない。

「二人っ子政策」実施に対する調査

最近、一人っ子を育てている300名の既婚者に対して調査を行った。そのうち、80年代生まれの人々は37%、70年代前半生まれの人々は22%、70年後半生まれの人々は16%、また家庭の年収は、10万円～20万円が26%、20万円～30万円が29%、30万円～50万円が18%、50万円以上が20%であった。

このうち、2人目の子どもを予定している人は44%、残った55%は2人目の子どもを望んでいないことを示した。一番の原因は経済問題だ。

課題解決に向けて

子どもを作るのか作らないのかはこの世代の自由であり、悩みでもある。「単独二子」政策が全面的に実施されて以来、条件に合致している家庭は2人目の子どもがほしくても、現実問題を考えると、簡単に決めることはできない。当事者がどのような選択をしても、自分と自分の次の世代に責任を負わなければならない。

「二人っ子政策」の実施は、継続的な経済成長に貢献するメリットがあるが、多くの人々の賛同を得るためには経済的な助成以外にも、教育問題などを解決するための効果的な手段が必要とされている。

(データ出典：第一財政日報9月28日)

(2015年9月)